

解答

一

- ① ゆらい ② しじゅう ③ ひんぶ ④ む（れて） ⑤ とな（える）
⑥ 宣伝 ⑦ 細心 ⑧ 構内 ⑨ 覚（める） ⑩ 疑（う）

二

問一 鼻 2 顔 3 手 4 口
問二 ウ 2 ア
問三 オ 2 イ 3 オ

三

問一 どんぐり
問二 イ 2 エ
問三 エ
問四 エノちゃん
問五 ア
問六 イ
問七 自分に投票したことがわかってしまうかもしれない
問八 ウ
問九 エ

四

問一 そり
問二 （臨）機（応）変
問三 1 ウ 2 ア 3 エ
問四 エ
問五 イ
問六 ウ
問七 ア
問八 イ
問九 イ

解説

三

問七 少年が投票用紙に書いたのは自分の名前です。——線部⑥の直後に「怖くて、先生のほうも向けない。」とあるので、字の書き癖から少年が自分自身に投票したことがばれることを怖れているという内容を書き表します。

問九 本文では、学級委員の選挙を通じ変化する少年の気持ちを、ていねいに描いています。周囲とのやりとりと通じ少年の思いが表現され、心の中の様子を場面ごとに描いていることから、選択肢エが最も適当です。

四

問六 ——線部③の次の段落から、「反応閾値」の説明が始まります。「ミツバチでは、蜜に」で始まる段落に「つまり、必要とされる行動に対する反応しやすさに個体差があるのです。」という一文があり、選択肢ウが最も適当です。

問九 ——線部④の後にある「つまり、腰が」から始まる段落に筆者の思いが表れています。腰が軽いものから重いものまでいることで、いくつもの仕事に対処することができることや、「全員の腰が軽くてもダメ」と述べていることから、選択肢イが適当であることがわかります。